オンライン言語教育の困難点
- 修士論文のための先行研究レビュー -

PHAM HOANG ANH (一橋大学)

Difficulties in Online Language Education
- Literature review for Master's thesis -

Hoang Anh PHAM, Hitotsubashi University

要旨：オンライン言語教育は従来の対面授業とは異なり、新たな教師の教え方、学習者の学習方法、評価方法などの工夫で適用していく必要があるため、様々な困難点がある。本稿ではオンライン言語教育の困難点についての先行研究を概観した結果、オンライン言語教育の困難点の全体像が明らかになった。

キーワード：オンライン言語教育、オンライン授業、ICT、困難、課題

1. 研究背景と研究目的

テクノロジーの発展とともに、言語教育にテクノロジーを導入することが普及してきており、ライブ配信やビデオ講座、ケータイのアプリなど、様々なテクノロジーがオンライン言語教育に導入されている。しかし、オンライン言語教育は従来の対面授業とは異なり、時間、場所などクラスの物理的な境界線を超えるオンライン教育の発展に伴って、新たな教師の教え方、学習者の学習方法、評価方法などの工夫で適用していく必要がある (Barber et.al 2013, Ursula et.al 2020) ため、様々な困難点がある。本稿は、オンライン言語教育の困難点についての先行研究のまとめと把握を目的とする。

2. 先行研究

オンライン言語教育について、先行研究では様々な問題が指摘されている。Ursula (2020) は教師のオンライン教育スキルが問題の原因であるとし、Susan (2011) はすべて教育学自体の本質的問題が原因であると指摘している。一方、Jacobs (2014) はオンラインコースの主要な課題は学習者であるとしており、Yueng (2001) はインタラクティブや学生のサポート、コース開発、コース構成、およびオンライン学習の評価方法を主要な問題として挙げている。しかし、これらの先行研究は題点ごとに整理されておらず、全体像が俯瞰的に見られない (Mayes et al 2011) 。そのため、本稿では、教師側と学習者側別でオンラインでの言語教育に影響を与える問題や課題について整理を試みた。

2.1 教師に関連する問題

本節は、オンライン語学教育で教師に関する問題についてまとめた先行研究である。

Compton (2009) は、オンライン言語教育をするにあたり、オンライン教師にとって必要となる新しいアプローチとスキルの特定と研究がまだ少ないとし、教師に関連する問題を、技術的課題と教育的課題という 2 つの特定のカテゴリーに要約した。

オンライン言語教育の課題に対処する最初の包括的な研究の一つは、Hampel and Stickler (2005) によって行われたものであり、オンライン言語教育で教師に必要とされるスキルのフレームワークがある（図 1）。Compton (2009) のカテゴリー要約から、レベル 1~3 は基本的な能力で技術的課題に関連し、レベル 4~7 は教育的課題に関連していることに適することが分かる。

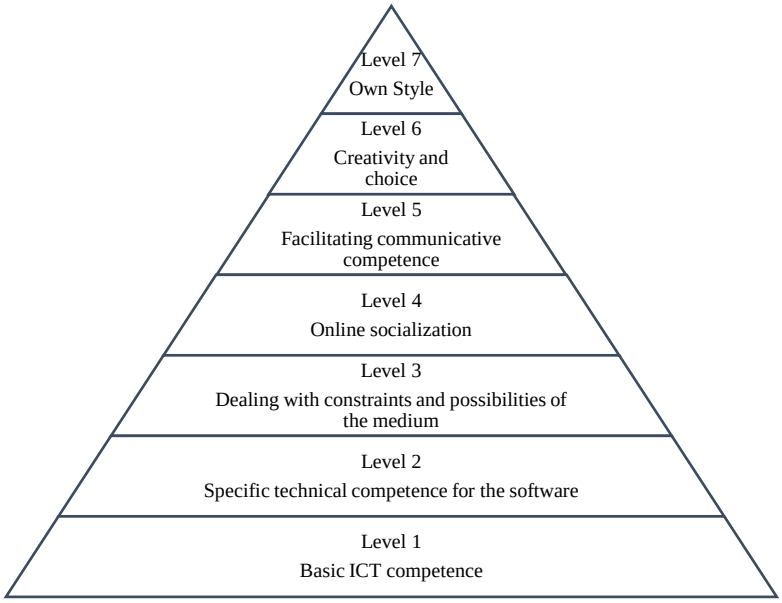

図 1：Skill Pyramid　(Hampel & Stickler 2005, p. 317)

まず、技術的課題について述べる。Liu & Kleinsasser (2014) は、オンライン言語教育の主要な課題の一つは、教師の限られた技術リテラシーまたは技術へのアクセス問題であると指摘し、教師が必要な技術的専門知識を向上させるための十分な時間が必要としている。急速に変化するテクノロジーにより、教師に求める必要なスキルも急速に変化しているが、基礎的な技術のスキルは常に必要である。その他に、教師は学習者に情報へのアクセスと技術的なサポートの案内を実際に行うようにする必要がある (Yuce 2011) 。そのためには、教師は自身の技術使用にある程度自信を持ち、技術的な能力を向上させる必要がある (Knezek & Christenden 2016) 。能力不足は自信の欠如につながるため、自信の構築は、ICT を言語教育に導入することに不可欠である (Peeraer & Van Petegem 2011) 。しかし、教師研修では、将来または現在の教師がこれらのスキルを伸ばすのに役立たない (Ursula et al 2020) 。

OECD‐経済協力開発機構 (2018) によると、クラス内での ICT スキルと使用についての調査結果では、教師が革新的な実践を授業に取り入れられるように利用できる準備とサ

ポートが限られていることが明らかになった。調査結果によると、OECD 全体で 56%の教師しか正式な教育またはトレーニングの一環として教育に ICT を使用するトレーニングを受けていない。また、初期の教育またはトレーニングを完了し、具体的に十分またはとても十分に準備できていると感じている教師は 43%に過ぎない。さらに、OECD 全体の教師の約 18%は、教育のための ICT スキルの専門能力開発に対する高い需要を表明した。最後に、25%の学校指導責任者が、教育にてデジタルテクノロジーの不足と不適切が質の高い指導を提供する上での妨害になっていると報告をしており、TALIS データでは教師の ICT 使用が限られていることが述べられている (OECD 2018: 29) 。

次に、教育的課題について述べる。Ernest et al (2014) では、協力的でコミュニカティブな学習者中心のクラス設計、育成、管理能力が ICT を活用した教育の場に適切で基本的な教師のスキルであることが述べられている。学習者同士のインタラクションは学習者を社会化し、協同させ、積極的に参加するために必要なコミュニティ作りのスキルを向上させる (Compton 2009) ため、オンライン言語教師として成功するためにはインタラクションの機会を作ること (Hauck & Stickler 2006) としている。

オンライン言語教師に必要とされる能力について、Compton (2009) は、初心者と上級者別に分けた。初心者の場合、「オンラインコミュニティの構築と社交のための戦略」「コミュニケーション能力とオンラインインタラクションを促進するための戦略」「オンライン言語学習のための言語学習理論」「オンライン言語学習のためのカリキュラム設計フレームワーク」「オンライン言語評価の戦略」の知識の習得と処理能力が必要と主張している。一方、上級者の場合、「コミュニケーション能力とオンラインインタラクションを促進するための新しいオンライン言語資料とタスクを作成するための資料の使用と選択における創造性」「オンラインの社会化とコミュニティ構築を促進する創造性」「言語学習の直感的な統合評価」などの要素が必要とされている。

また、Capra (2011) と Humphries (2010) は、教師が直面する主要な課題の一つに、時間の問題があるとし、オンラインクラスの準備、計画、および指導にかなりの時間がかかるため、たくさんの時間が要求されると指摘している。

もう一つの課題は、学習プログラムを設定することである。クラスで教えることが得意な教師が、簡単にオンラインに飛び込んで教えることができることは神話のような話である (David & Roses 2007) 。多くの研究で特定された課題の中で、教師が従来の教育スタイルをオンラインに持ち込んでおり、それが機能していないように見えるという事実がある (Coppola et al 2001) 。そのため、Kebritchi et al (2017) は、学生のより良い教育を促進するための新しい戦略を検討するオンライン語学教授法とオンライン学習プログラムを検討する別の方法があると考えている。

Easton (2003) の遠隔教育が必要とする教師のスキルの研究によると、オンライン教師は、コミュニケーションに加えて、指導の時間と空間、仮想管理技術、および仮想コミュニケーションを通じて学生を引き付ける方法のパラダイムシフトを行う必要があることを

示した。これは、一般的で効果的な教室での指導に常に必要なスキルとされている。図 1 にあるように、オンライン言語教師に必要とされるスキルの最高レベルには、個人的な教育スタイルを開発する能力、メディアと資料を最大限に活用する能力、学生との関係を形成する能力、アクティブでコミュニケーション的な言語を促進するために創造的にリソースを使用する能力が含まれる (Hampel & Stickler 2005) 。したがって、オンライン言語教育に適した新しい教育スタイルを再発見し開発するためには、対面での教育経験を持つ教師のほうが好ましい (Compton 2009) 。

最後の教育的課題は、オンライン言語授業における学生の評価である。これについて、Bloxham & Boyd (2007) と Oncu and Cakir (2011) は、対面インタラクションがないオンライン学習環境で教師が特に困難を感じる点として、事前に設定した学習目標を学習者が達成できるように的確な指示や意図を伝えること、そして適切なフィードバックをすることであると主張している。

2.2 学習者に関連する問題

本節は、オンライン言語教育で学習者に関連する問題についてまとめた先行研究をとりあげる。

学習者に関連する問題については、学習者の期待 (Luyt 2013) 、学習者のレディネス (Hung et al 2010, Smith et al 2003) 、学習者の参加 (Kebritchi et al 2017) の 3 つがある。

まず、学習者の期待について、Luyt (2013) は、学習者の過度な期待が効果的なオンラインコースを妨げる可能性があるとしている。例えば、オンラインコメントや宿題での E メールに対する即時的なフィードバックへの過度な期待などである。教師は、コースの開始時に、ルールとポリシーを明確に伝えることで、このような不適切な期待を最小限に抑えることができることが指摘された。

次に、学習者のレディネスについて、Mayes et al (2011) は、すべての学習者がオンラインコースに正常に参加できるわけではなく、オンラインコースに参加するために必要な学習スタイルとスキルを特定して参加することは、学習者にとって困難な場合があることを指摘している。日本語のオンラインコースでは、学習者がとりわけ自己規律、優れた時間管理スキル、および自習の習慣を持っている必要があるが、すべての学習者がこれらの資質を持っているわけではなく、問題は、学習者がこれらの資質を持っているかどうかは授業を始めるまではわからないということだ (Miyamoto et al 2017) 。学習者が必要なスキル特定をする助けとして、Hung et al (2010) は 5 つの主要な包括的なレディネスディメンションを提案した。 それは、「自主学習」「学習意欲」「コンピューターとインターネットに関する自己効力感」「オンラインコミュニケーションに関する自己効力感」「学習者の制御」が含まれる。教師は、これらの検証済み手段を使って、5 つのディメンション内でのオンライン学習者の準備レベルを特定し、オンラインコースに参加する準備が整っていない学習者のサポートをすることができる (Kebritchi et al 2017) 。

最後に、学習者の参加についてである。オンラインでの参加がより困難な要因として、Willging & Johnson (2004) は、クラスがサイバースペースのみに存在し、教師と学習者の間の物理的なインタラクションの制限が他人との共同作業を困難にすると考えている。よって、教師は、学習者のオンライン参加の性質を認識してサポートすることに意味がある (Kebritchi et al 2017) 。オンラインディスカッションへの学習者の参加強化のサポートとして、Kebritchi et al (2017) は、一般的に、音声またはビデオによるディスカッションは、コミュニティの構築や、アイスブレイキング活動、文字情報の明確化と詳細化のために推奨されると述べている。

3. まとめ

以上のように、先行研究の整理によって、オンライン言語教育の困難点の全体像が明らかになった。しかし、先行研究では、これらの困難点がどのオンラインの形式の問題かは明らかになっていない。ライブ配信やオンデマンドなどオンラインの形式によって、困難が異なることが予測される。実際に質問紙調査を行って、困難点の全体像及び、オンライン形式による困難点の差異等を明らかにしていきたいと考えている。

参考文献

Barber, M. Donnelly, K. Rizvi, S. & Summer, L. 2013. *An avalanche is coming: higher education and the revolution ahead*. Institute for Public Policy Research. London. UK.

Bloxham, S. & Boyd, P. 2007. *Developing effective assessment in higher education: A practical guide*. Maidenhead. UK: Open University Press.

Capra, T. 2011. *Online education: Promise and problems*. Merlot Journal of Online Learning and Teaching: 7 :288-293.

Compton, L. 2009. *Preparing language teachers to teach language online: a look at skills, roles, and responsibilities*. Computer Assisted Language Learning. Vol.22: No.1: 73-99.

Coppola, NW. Hiltz, SR. & Rotter, N. 2001. *Becoming a virtual professor: Pedagogical roles and ALN*. System Sciences, Proceedings of the 34th Annual Hawaii International Conference.

Easton, S. 2003. *Clarifying the instructor's role in online distance learning*. Communication Education. Vol. 52: No.2: 87-105.

Ernest, P. Catasus, M. Hampel, R. Heiser, S. Hopkins, J. Murphy, L. & Stickler, U. 2013. *Online teacher development: collaborating in a virtual learning environment*. Computer Assisted Language Learning. Vol.26: No.4: 311-333.

Hampel, R. & Stickler, U. 2005. *New skills for new classrooms: training tutors to teach language online*. Computer Assisted Language Learning. Vol.18: No.4: 311-326.

Hauck, M. & Stickler, U. 2006. *What Does It Take to Teach Online?*. CALICO Journal. Vol.23: No.3: 463-475.

Humphries, S. 2010. *Five challenges for new online teachers*. Journal of Technology Integration. Vol.2: 15-24.

Hung, M. Chou, C. Chen, C. & Own, Z. 2010. *Learner readiness for online learning: Scale development and student perceptions*. Computers & Education. Vol.55: 1080-1090.

Jacobs, P. 2014. *Engaging students in online courses*. Research in Higher Education Journal. Vol. 26.

Kebritchi, M. Lipschuetz, A. & Santiague, L. 2017. *Issues and challenges for teaching successful online courses in higher education: a literature review*. Journal of Educational Technology Systems. Vol.46: No.1: 4-29.

Liu, MH & Kleinsasser, RC. 2014. *Fostering online professional development between EFL preservive and inservie teachers: addordances and challenges*. English Teaching & Learning. Vol.38: No.2: 29-64.

Luyt, I. 2013. *Bridging Spaces: cross-cultural perspectives on promoting positive online learning experiences*. Journal of Educational Technology Systems. Vol. 42: 3-20.

Mayes, R. Luebeck, J. Yu Ku, H. Akarasriworn, C. & Korkmaz, O. 2011. *Themes and strategies for transformative online instruction*. The Quarterly Review of Distance Education. Vol.12: 151-166.

Miyamoto, M. Suzuki, N. Fukada, A. Huang, Y. Hou, S. & Hong, W. 2017. *Teaching Languages Online: Innovations and Challenges*. Purdue Languages and Cultures Conference. No.3

OECD. 2018. *TALIS 2018 Results (Volume I): Teachers and School Leaders as Lifelong Learners*. OECD Library.

Oncu, S. & Cakir, H. 2011. *Research in online learning environments: priorities and methodologies*. Computers & Education. Vol.57: No.1: 1098-1108.

Pedro A, Willging. & Scott D, Johnson. 2004. *Factors that influence students' decision to dropout of online courses*. Journal of Asynchronous Learning Network. Vol.8: Issue 4

Peeraer, J. & Van Petegem, P. 2011. *ICT in teacher education in an emerging developing country: Vietnam's baseline situation at the start of "The Year of ICT."*. Computers and Education. Vol.56: 974-982.

Smith, P. J, Murphy, KL. & Mahoney, SE. 2003. *Towards identifying factors underlying readiness for online learning: An exploratory study*. Distance Education. Vol.24: 57-67.

Susan, YHS. 2011. *Online language teching: the pedagogical challenges*. Knowledge Management & E-Learning: An International Journal. Vol.3: No.3.

Ursula, S, Regine, H. & Martina, E. 2020. *A development framework for online language teaching skill*. Australian Journal of Applied Linguistic. Vol.3: No.1: 133-151.

Yueng, D. 2001. *Toward an effective quality assurance model of web-based learning: the perspective of academic staff*. Online Journal of Distance Education. IV.